

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		四天王寺大学		設置者名	学校法人 四天王寺学園				
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業 者数	免許状 取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
人文社会学部	言語文化学科 日本語日本文 化専攻	70人	中一種免(国語)	昭和58年度	65人	23人	21人	6人	
			高一種免(国語)	昭和58年度			20人		
			高一種免(書道)	昭和58年度			8人		
	言語文化学科 専攻 中国語アジア 文化専攻	30人	高一種免(地理歴史)	平成20年度	/	/	/	/	
			英語文化学科	100人	中一種免(英語)	平成20年度	/	/	/
	社会学科	150人	高一種免(英語)	平成20年度	/	/	/	/	
中一種免(社会)			昭和61年度	188人	24人	24人	12人		
人間福祉学科 社会福祉専攻	90人	高一種免(公民)	昭和61年度			0人		0人	22人
		高一種免(公民)	平成10年度	0人	0人				
教育学部	教育学科	180人	高一種免(福祉)	平成10年度	0人	0人	0人	0人	
			幼一種免	平成20年度			/		/
			小一種免	平成20年度			/		/
			中一種免(英語)	平成20年度			/		/
			高一種免(英語)	平成20年度			/		/
			中一種免(保健)	平成20年度			/		/
			高一種免(保健)	平成20年度			/		/
養教一種免	平成20年度	/	/						
入学定員合計		620人	合計		253人	47人	95人	18人	
大学名		四天王寺大学		設置者名	学校法人 四天王寺学園				
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業 者数	免許状 取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
/	保育科	100人	幼二種免	昭和42年度	105人	103人	103人	26人	
入学定員合計		100人	合計		105人	103人	103人	26人	
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成23年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。								

■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

(大学)

- ・教務課、通信教育部事務室、大学院事務室に配置された教職課程担当者が、日常的な指導を行っている。
- ・就職指導については、教職相談室を置き、教員採用試験対策講座のほか、現職教員を招いてのセミナーなどの取組を行っている。
- ・通信課程の科目等履修生に対しては、400字程度の志望理由書を書かせ、教員免許取得の希望等を確認している。

(短期大学部)

- ・教職指導に特化した組織はなく、学務課など学科ごとに履修指導を行っている。

<講評>

(大学・短期大学部共通)

- ・教職支援室が設置され、学生への就職指導の体制や施設が整えられており、評価できる。今後はさらに決め細やかな支援を期待する。
- ・教員免許取得者及び教員就職者の少ない学科がみられるため、その要因を大学として分析し、改善を図ること。
- ・通信課程については、特に幼稚園及び小学校教員の課程において対面授業を増やすなど、丁寧な履修指導を行うこと。
- ・通信課程については、正科生であっても教員免許取得状況を把握されていないため、課程認定大学として、通信課程での教員免許取得状況についても把握をすること。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

(大学・短期大学部共通)

- ・現在は教務委員会（学長を委員長、各学科長、事務職員が出席）において、教職課程のカリキュラムや教育実習に関する事項を扱っている。

(大学)

- ・平成24年度からは「教職課程運営委員会（仮称）」を立ち上げ、教職課程のカリキュラムの運営や履修指導から採用支援を全学的に取り扱う予定である。併せて事務組織として「教職・キャリア支援センター（仮称）」を立ち上げる予定である。

<講評>

- ・来年度から発足する「教職課程運営委員会（仮称）」において、全学的な教員養成の理念・構想を具体化するための立案機能や、教職課程科目の内容及び教職課程認定基準への適合性のチェック機能を発揮できるようにすること。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<講評>

(大学)

- ・芸術に係る教育の施設設備が大変充実しているだけでなく、教職に関する科目に係る図書のほか、教育に関する実践的指導力の向上を図るための各種の教育機器等が十分に備えられている。
- ・初等芸術教育学科においては、理科実験室や家庭科室等が設置されているが、完成年度前であるため実験器具等が揃っていない部分がある。学校現場で使用されている器具・機材を揃えるよう、引き続き適切に管理運営をすること。

実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成23年11月16日（水）

実地視察大学：四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部

実地視察委員：大坪治彦委員、高倉翔委員

■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

<状況>

（大学）

- ・ 2学部5学科3専攻で教員養成を行っている。

（短期大学部）

- ・ 1学科で教員養成を行っている。

<講評>

（大学・短期大学部共通）

- ・ 教員養成に関する教育課程、教員組織等については、教職課程認定基準と照らし合わせ、一部改善が求められる点があるものの、全般的に良好に実施されており、教員採用者数等の実績は評価できる。
- ・ 今後とも引き続き、教員養成の水準の維持向上に努めてほしい。

■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

<状況>

（大学・短期大学部共通）

- ・ 建学の精神に基づく宗教的情操教育により、教科を教えるための専門性に加え、和の精神を体得した教員の養成を行っている。

<講評>

（大学・短期大学部共通）

- ・ 教員養成に対する理念・構想が明確にされているが、それを具体化するため、より一層の教職課程に対する全学的な組織、教育課程及び教員組織の整備が望まれる。
- ・ これまで多数の教員を輩出している実績があり、より一層充実した教員養成が行われるよう、引き続き、各取組の充実を図ってもらいたい。

■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

<講評>

（大学・短期大学部共通）

- ・教職に関する科目について、教育職員免許法施行規則に定める「含めることが必要な事項」が含まれていない科目があるため、法令で扱うこととしている内容は必ず扱うようにすること。

（大学）

- ・教科に関する科目については、自学科等での開設を原則としている一方、教職課程の科目内容の水準の維持・向上等を図る観点から、各科目区分の半数までは他学科の科目を充てることが可能とされている。貴学の各学部においては、科目区分の半数を超えて学部共通科目等を充てている学科等が複数あることから、それら学科等は、基準を満たすよう修正すること。
- ・小学校の教員免許取得にあたって、ピアノの授業が義務づけられているわけではないが、小学校の指導においてピアノの演奏技術は重要であるため、すべての学生がピアノの実技指導の授業を受けるよう検討してほしい。

■ 教育実習の取組状況

<状況>

(大学)

- ・ 中学校及び高等学校への教育実習先は母校を原則としており、実習校は原則学生の自己確保としている。
- ・ 実習期間中は、学生の所属学科のゼミ担当教員が実習校指導教諭と連絡をとりつつ、当該実習期間中に、必ず訪問指導を行っている。
- ・ 教育学科において初等教員免許を取得するほとんどの学生は、小学校で教育実習を行っている。

(短期大学部)

- ・ 幼稚園での教育実習先は母園又は出身地を原則としており、実習校は原則学生の自己確保としている。

<講評>

(大学・短期大学部共通)

- ・ 教育実習の実施にあたっては、課程認定大学は、教育実習の全般にわたり、学校や教育委員会と連携しながら、責任を持って指導に当たることが求められる。
- ・ 実習期間中は、沖縄など遠方の学生に対しても担当教員が訪問指導をすることとしており、大学が責任を持って教育実習に関する指導を行おうとする姿勢が見られる。引き続き、学生が、実践的指導力を身に付けることができるよう、教育実習に係る指導体制の充実に努めること。
- ・ 大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、可能な限り大学が所在する近隣において実習先を確保することが望ましいが、一方で、学生が出身地の学校への就職を希望する等により、遠隔地における教育実習を行う場合は、大学が、実習先の学校と連携し教育実習に関わる体制を構築するとともに、公正な評価となるように努めること。

(大学)

- ・ 教育学科において幼稚園・小学校の教員免許を取得する学生は、小学校での教育実習のみで免許状取得することが可能であるが、大学での養成段階で幼児教育に触れる機会を設けることは必ずプラスとなるため、幼稚園と小学校の両方で実習ができるよう、教育実習の実施の方法などを工夫してほしい。

■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

(大学)

- ・近隣の羽曳野市及び藤井寺市の教育委員会と協定を結び「学校インターンシップ実践研究（1単位）」を開設しており、幼稚園、小学校及び中学校において、学習補助や教育活動の準備作業など、教職員の行う業務全般を体験している。
- ・そのほか、学校支援学生ボランティアとして近隣の学校へ派遣している。

<講評>

- ・インターンシップの実施にあたって、インターンシップ先の学校にすべてを任せてしまうわけではなく、教育委員会職員を招いての学校現場に関する講演等の事前事後指導が行われているほか、インターンシップ期間中に各学生に対し巡回指導を行っていることは、評価できる。

■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

(大学)

- ・各学科・専攻においてオリエンテーションを行っているほか、各学科の教員による履修指導を行っている。
- ・教職支援センターにおいては、教職支援委員の教員が教職の履修指導や教員採用試験対策など常時対応している。

<講評>

(大学)

- ・地元大阪府をはじめとする関西地区のみならず、関西以外での教員採用実績は大変評価できる。その要因の1つとして、教職支援センターなどの施設や教職相談員の配置等が大変充実しており、しっかりと学生の出口管理がなされていることが挙げられる。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

(大学・短期大学部共通)

- ・教職課程の運営とカリキュラムの検討、教育実習の計画実施を行う組織として、教務委員会の専門部会である「教員養成カリキュラム委員会」を設置している。
- ・このほか、各学科・専攻に教職担当、教育実習担当の教員を配置している。

<講評>

- ・学長の下で教職課程に関する全般的な方策の立案等を担当する、全学的な組織を充実させること。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<講評>

(大学・短期大学部共通)

- ・教職に関する科目に係る図書のほか、教育に関する実践的指導力の向上を図るための各種の教育機器等が十分に備えられている。また、近隣の学校で実際に使用されている教科書や学習指導書等を揃える姿勢も大変評価できる。
- ・小学校教員養成課程における、理科室及び調理実習室などは実際の学校現場で使用されている器具が揃えられており、大変充実している。